囲碁ノススメ

「△△先生，持ち時間を使い切りましたので，１手30秒の秒読みになります。……10秒，……20秒，１，２，３，４，５，６，７，８……」ここでスッと手が伸びて，パシッと石を打ちおろす。

おなじみのテレビ碁の風景である。プロ棋士が，与えられた時間をいっぱいに使い，30秒寸前になって着手する姿は，なかなか迫力のあるものである。我々アマチュアにとっては，プロの打っている碁の内容は理解できなくても，テレビ碁はそれなりに楽しめる。そのせいか，碁の番組は視聴率もそれほど悪くはないらしく，(良いとは言っていない)最近では５～６本の番組が各局から放映されている。

現在，一説では日本の囲碁人口は１千万人と言われている。「囲碁人口」の範囲がどの程度までを含むのかよく分からないが，「趣味として碁をたしなむ」範囲とすれば，もっと少ないだろう。１千万という数字には「一応ルールは知っている」といった底辺層まで含んでいるような気がする。同じ範囲で言えば，将棋人口はン千万人に達するかも知れない。特に男子の場合，殆んどは小学生の頃に覚えてしまっていると思う。入りやすいのである。その点では囲碁は抽象的な要素があるので，入りにくいところがある。この辺が両者の普及人口の差になって現れているのではなかろうか。

ところが，プロ棋士の数は囲碁のほうが将棋より３倍ぐらい多いはずである。このことは，彼らの生活を支える「趣味レベル」の普及人口は囲碁のほうがかなり多いことを意味する。それは，関連雑誌，書籍の種類や発行部数を見ても見当がつく。また，女流プロ棋士が多いのも囲碁の特徴である。

つまり，囲碁は覚えにくいのだが，一度その面白さが分かると一生やめられない，という傾向が強いようである。それでは，一体囲碁のどんなところがそんなに面白いのかというと，説明に困ってしまう。「とにかく囲碁を覚えてみなさい。そうすれば面白さがよく分かります。」と答えるしかない。但し，面白さが分かるまでは入門してから相当の期間(この期間は年をとる程長くなる)を必要とするので，この間の辛抱が大切である。これを乗り切れなくて囲碁から離れていく人が実に多い。もっとも，囲碁に限らず，何事に関しても初めの辛抱が大切なのは同じかも知れないが。

さて，囲碁の効用・特徴をいくつか挙げてみよう

１．経済的な趣味である

要するに金がかからないのである。一般に趣味や道楽は何かにつけて金のかかるものであるが，囲碁の場合は最初に道具をそろえてしまえば半永久的に使えるので，後の維持費はゼロ。但し，道具に凝りだすと話は別である。何しろ，極上と言われる天地柾のカヤ盤などは最低でも数百万円はするし，碁石も日向のハマグリで厚手のものは１個１万円と宝石みたいなものがある。上を見たらキリがないということであり，まあ自分の腕前相応の物を持てばよいということか。

２．特別な場所を必要とせず，２人そろえばできる

これは室内ゲーム共通の特徴かも知れない。県庁の中でも昼休みになると，机の引き出しに板盤を乗せて対局している風景をよく見る。

３．頭が柔軟になる(はずである)

これぞ囲碁の最大の特徴。碁盤の目は縦横各19路で361ある。世界中の室内ゲームのうち，目数では多分最大の盤であろう。この広い盤上を，局部的な戦術と全局的な戦略を組み合わせながら戦いを進めて行くのだから，頭脳に好影響を及ぼさないはずがない。特に子供の頃に碁を覚えれば，知能指数が高くなることは請け合いである。また，年をとってからは，碁を打つことによって頭脳の老化を防止できる。

最後に，囲碁人として最低限守らなければならないマナーについて一言。それは，対局中に碁笥の中に手を突込んで，石をジャラジャラならすのを慎むことである。不思議なもので，碁の強い人ほどジャラジャラをやらないものである。強くなったので恰好の悪いジャラジャラをやめるようになったのか，それともジャラジャラをやらないので強くなったのか，どちらかは知らないけれども，多分後者であろう。碁笥に手を入れなければ，すぐに着手はできないので，ジックリ考える癖がつき，それで強くなるのではないかと思われる。

（統計課・勝沼貞幸）

【新着資料案内】

この資料は，昭和56年10月中に行政資料室に到着した主なものです。ご利用下さい。
行政資料室　本庁舎地下１階　TEL 0292-21-8111(内線2668)

中央官公庁関係

行政資料名	発行所(者)
社会生活統計指標　統計でみる県のすがた(昭和56年３月)	総理府
日本の住宅(昭和53年住宅統計調査の解説)	〃
小売物価統計調査のしくみ	〃
昭和54年　全国消費実態調査報告　家計収支編　第1,2,7巻	〃
昭和55年　貯蓄動向調査報告	〃
昭和56年版　警察白書	警察庁
国際統計資料目録（その5）	行政管理庁
海外統計書総覧〔第4集〕	〃
統計に用いる標準地域コード(昭和56年４月２日現在)	〃
昭和56年版　国土統計要覧	国土庁
文部省第107年報	文部省
昭和54年度　私立学校の財務状況に関する調査報告書	〃
昭和54年　伝染病及び食中毒統計概況	厚生省
昭和55年　厚生行政基礎調査報告	〃
第56次　農林水産省統計表	農林水産省
昭和54年　商業統計表　第1巻,産業編	通商産業省
昭和56年版　通商白書	〃
昭和56年版　通商白書各論	〃
昭和54年　工業統計表　市町村，品目編	〃
第4回　商業実態基本調査報告書(速報)	〃
昭和55年　窯業統計年報	〃
昭和55年　プラスチック製品統計年報	〃
昭和55年　建材統計年報	〃
昭和55年　ゴム製品統計年報	〃
昭和55年　化学工業統計年報	〃
昭和54年度　民鉄統計年報	運輸省
昭和56年版　労働白書	労働省
昭和55年　労働経済の分析	〃
1981年版　労働統計要覧	〃
昭和56年版　建設白書	建設省
政治資金規制法(昭和55年12月改正)	自治省
１９８１　地方自治便覧	〃
昭和56年版　地方財政統計年報	〃

茨城県関係

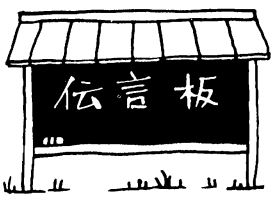
行政資料名	発行所(者)
80年代の県政を考えるための意見を聞く発言集	茨城県議会
県民の最大多数の最大幸福を願って県民の声を聞く集い発言集	〃
昭和56年度　茨城県の財政(当初予算)	財政課
昭和57年度　国の予算編成に対する要望事項	企画調整課
'８０　公共公益施設の配置に関する調査報告　第１,２部	〃
労働組合のしおり	労政課
昭和55年　雇用保険業務概要	雇用保険課
山村等振興事業の概要	農政企画課
地域農業経営改善推進事業報告書	〃
茨城県農林農地水産行政の体系	農林水産部,農地部
茨城の園芸特産	流通園芸課
大規模養鶏経営の実態と問題点	改良普及課
茨城の野菜病害虫Ⅰ	〃
農用地開発公団事業実施区域の営農実態	畜産課
茨城県肉用牛集団育種基礎牛関係集録	〃
茨城県特用林振興対策事業実施要領，実施基準	林政課
昭和55年度　保健保全機能モデル林施業効果調査報告書	林業課
昭和56年度　地籍調査事業概要	農地計画課
昭和56年　土地分類基本調査	〃
都市公園関係法令規集	都市施設課
昭和55年度　茨城県公営企業会計決算書	企業局
昭和54年度　茨城県企業局水質年報 第11報	〃
昭和56年度　茨城県立高等学校入学者選抜実施状況報告	教育庁総務課
昭和55年度版　茨城県教育要覧	教育庁企画室
昭和56年度　茨城県「高校生の船」資料	教育庁社会教育課

県内市町村関係

行政資料名	発行所(者)
水戸市第２次総合計画３か年実施計画(昭和55～57年度)	水戸市
日立市の統計１９８１	日立市
紀要１　１９８１	〃
'８０統計つちうら	土浦市
古河市史資料　中世編	古河市
昭和55年　国勢調査古河市地方集計の概要	〃

【新着資料案内】

行政資料名	発行所（者）
結城市総合計画実施計画書（昭和55～57年度）	結城市
昭和56年版　統計きたいばらき	北茨城市
いばらき町の基本構想基本計画	茨城町
桂村第２次総合計画実施計画（昭和56～58年度）	桂村
昭和50～53年度　村民所得推計報告書	東海村
大野村総合計画 昭和54～63年	大野村
昭和56年 麻生町政要覧	麻生町
阿見町第２次総合計画３か年実施計画	阿見町
第二次出島村総合計画	出島村
昭和55～57年度　第２次総合計画実施計画書	八千代町
昭和55～57年度　石下町長期総合振興計画実施計画	石下町
都道府県関係	
昭和53年度　福島県市町村民所得	福島県統計調査課
昭和55年度　毎月勤労統計調査結果報告書	神奈川県統計管理課
昭和55年　工業生産統計調査結果報告	〃
昭和50年　石川県産業連関表	石川県統計情報課
昭和55年　福井県の農林業	福井県統計課
昭和55年　山梨県鉱工業生産指数	山梨県統計課
昭和55年　京都府の農林業(下)	京都府統計課
昭和55年版　鹿児島県勢要覧	鹿児島県統計調査課
公社・会社・団体等関係	
昭和55年版　電気事業年報	東京電力㈱
戦後我が国商業の長期動向分析　統計編（地域）	(財)産業研究所
茨城県における産業構造の展開方向に関する調査報告書（その１）	(財)常陽産業開発センター
茨城大学地域総合研究所年報 第14号　1981年	茨城大学地域総合研究所
１９８１　地域経済総覧	東洋経済新報社



昭和56年，本県統計の３大ニュースは

例年になく寒波の到来が早く，厳しい年の瀬となりそうです。

さて，統計大会が終了して一段落ついたところで，今年の本県統計の大きな出来事をふり返ってみますと，

１．事業所統計調査実施さる。

規模は昨年の国勢調査より小さいものの，やはり５年に一度のセンサスである同調査が，７月１日を調査日として実施されました。今回が初めての県での地方分査集計もほぼ終了し，年内には速報が公表される予定です。

２．県統計大会，筑波郡谷田部町で開催。

昨年までは県庁所在地である水戸市を会場としていましたが，今年初めて水戸を離れ，昭和60年に国際科学博覧会が決定している筑波研究学園都市に位置する谷田部町で，11月12日盛大に開催されました。

３．統計グラフ全国コンクールで弓馬田小児童（岩井市）が行政管理庁長官特別賞を受賞。

10月６日に発表された今年度の審査の結果，岩井市立弓馬田小学校３年石沢淳，小林正一，張替聡子３名の合作作品「使われていないぼくらのつくえ」が，特選並びに行政管理庁長官特別賞を受賞，本県としては初めての日本一に輝きました。

（以上編集部）